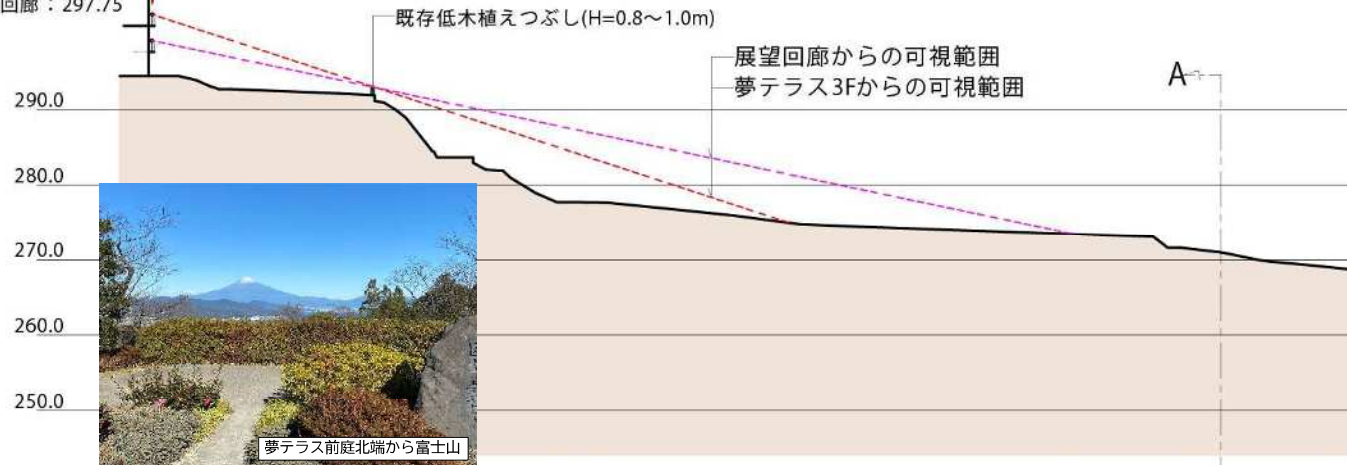


A-D断面図

S=1:500(タテ) / 1:1000(ヨコ) × 70%

視点場

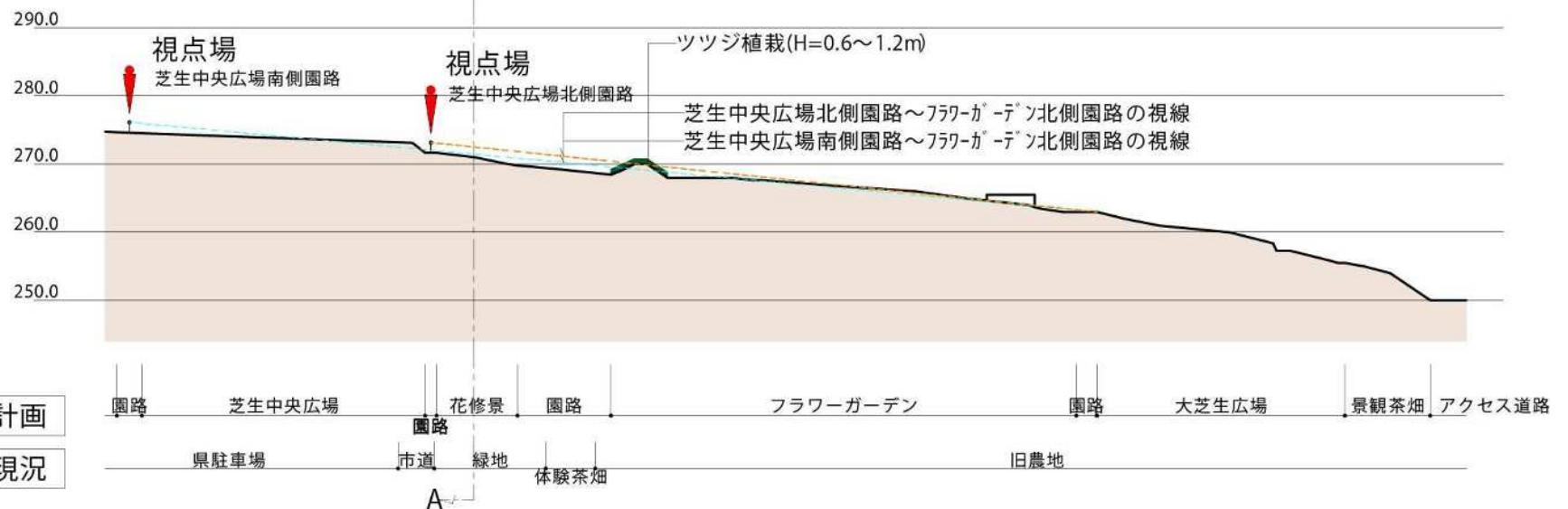
夢テラス3F: 301.2
展望回廊: 297.75



計画

現況

夢テラス 前庭 前庭 園路 植栽地 植栽地 タキサクラの庭 園路 サクラテラス 園路 芝生中央広場 園路 花修景 園路 体験茶畑



計画

現況

園路 芝生中央広場 園路 花修景 園路 フラワーガーデン 園路 大芝生広場 景観茶畑 アクセス道路

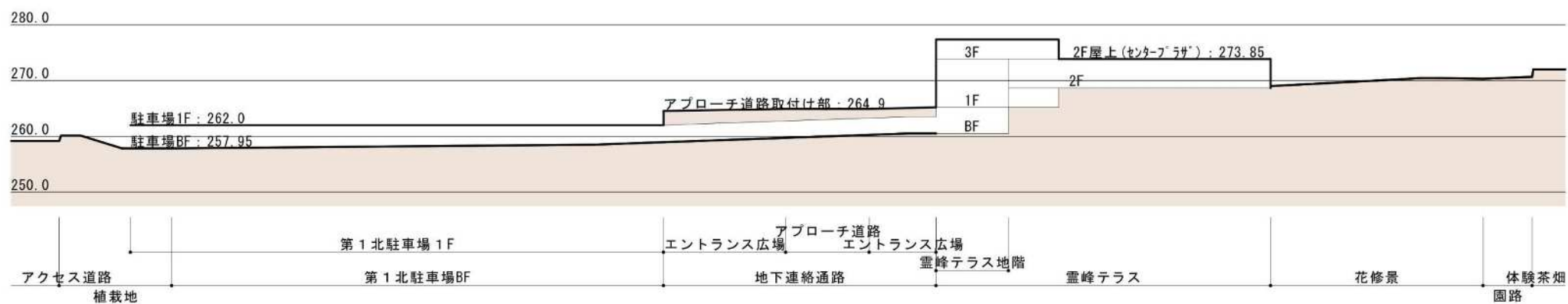
E-E断面図

S=1:500(地形) / 1:1000(建物) × 70%



F-F断面図

S=1:500(地形) / 1:500(建物) × 70%



5. 緑地保全に向けた取り組み方針

(1) 周辺樹林地の遷移と現状

過去の空中写真や地形図から推定できる、本地周辺の樹林の変遷は、明治 20 年当時、その大半が荒地またはササ原で、大正 4 年に針葉樹及び果樹の記号が見え始める。その後、昭和 35 年まで同様に、昭和 44 年に広葉樹に変化している。空中写真と併せ推察すると概ね、以下のような遷移があったものと考えられる。

明治 20 年以前	原野
～昭和 30 年代	針葉樹の植林（聞き取りからマツの可能性あり）
～昭和 40 年代	コナラ等の薪炭林への転換
～現在	放置による竹林の進行、林床部への常緑低木類の進行

このことから四周眺望地としての展望を阻害するひとつの要因となっている。

概ね、コナラを主体とした雑木林で、その中にヒノキまたはスギの植林地が点在する。管理が成されていないために総じて過密な状態にあり、一部で竹林の混入や、林床部への常緑低木の進入が見られる。また、雑木林内には、サクラが多く混在して見られる。

(2) 樹林管理の考え方

樹林を形成している範囲が、ほとんど台地丘陵部外縁の急傾斜地であるため、視点場となるほとんどの箇所、1～2 列の樹木の樹冠整理によって眺望は改善される。

但し、東展望台から吟望台にかけての尾根の東側樹林では、富士山や駿河湾方向の眺望の前景となるため、眺望の阻害となる樹高の抑制ばかりでなく、樹林としての質を高めていくことが求められる。

(3) 周辺樹林の保存管理

公園丘陵台地形範囲直近の樹林では、眺望を阻害する竹林や樹林の過密化、枝葉の繁茂等が見られるが、中近景を構成する有度山全体の樹林では、県立自然公園や風致地区指定等にもより、静岡市街地の貴重な里山としての環境を保持している。

今後とも、こうした森林景観や動植物の生育生息地としての環境を保持していくため、日本平公園の整備と併せ、有度山全体での保存管理計画を立てる中で、市民参加による定期的な管理や民有林の維持管理のための仕組みづくりを関係管理者と協議していくことが求められる。

特に、公園への主要アクセスとなる旧パークウェイ沿道については、車両からの景観を視点とした、過密林分の整理や、見通し（眺望景観）の改善、枯損木の除去等の林分の維持管理が求められる。

(4) 周辺農地(茶畑)の保存管理

天竜、春野、川根、牧之原、本山、富士など、大正・昭和にかけて国内随一の茶産地であった静岡県の茶栽培は、昭和 30 年代以降、衰退の途を進んだ。有度山においても、もともと地形的な制約により小規模栽培地が多かったこともあり、日本平をはじめ多くの箇所では茶栽培からの撤退や閉鎖が見られるようになり、現在では、平地部や緩傾斜地にわずかに残るまで激減していった。

日本平公園直近においても、わずかに残る茶園での栽培従事者の高齢化や担い手不足等により、撤退を表明している。

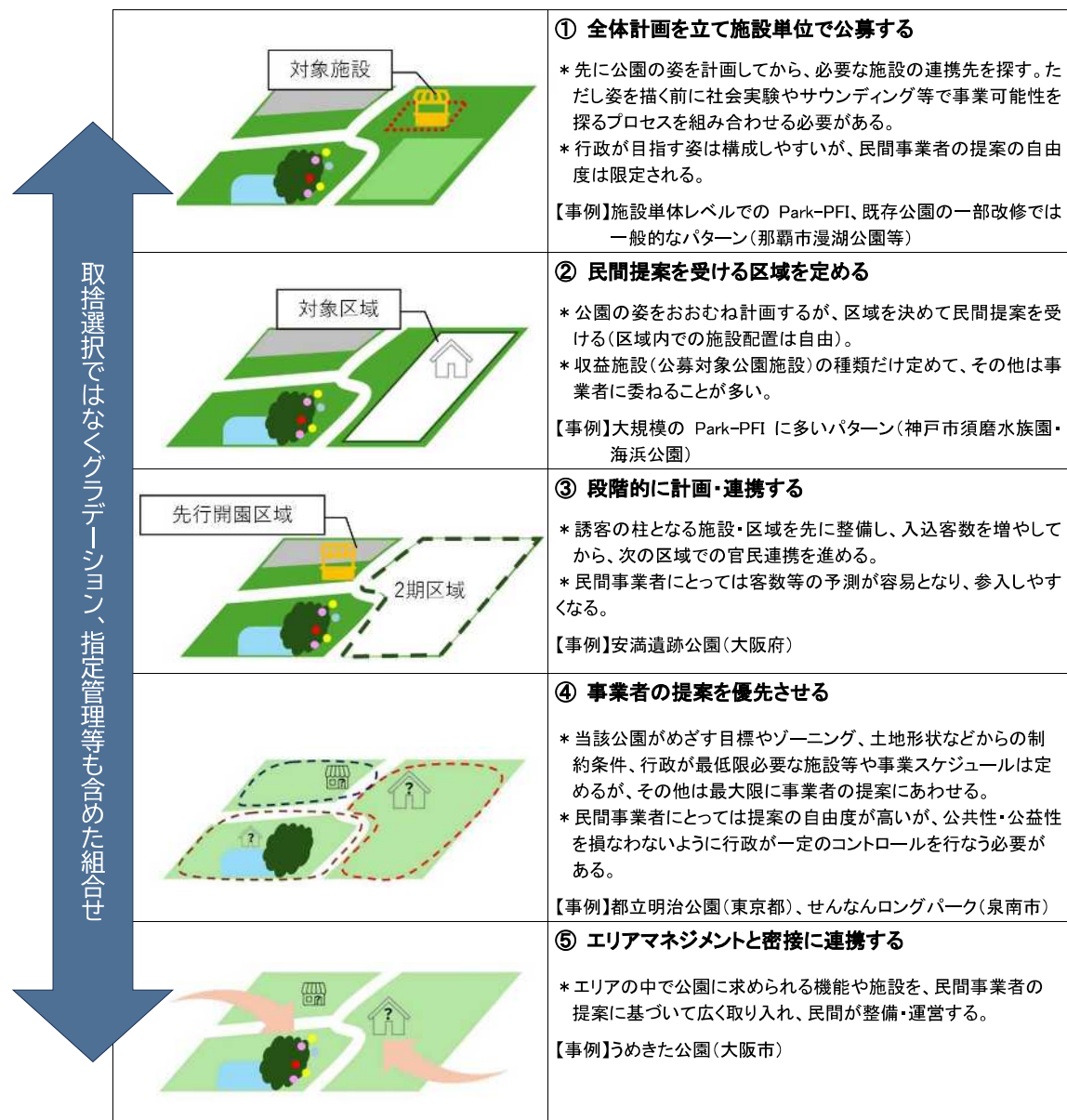
一方で、一部の市内農家からは、委託栽培の可能性を打診されており、大芝生広場北東部に残る茶畑については、日本平公園においても重要な景観資産であることから、本計画において整備（事業）範囲に追加し、茶畑の保全に努めるものとする。

樹林等管理方針図

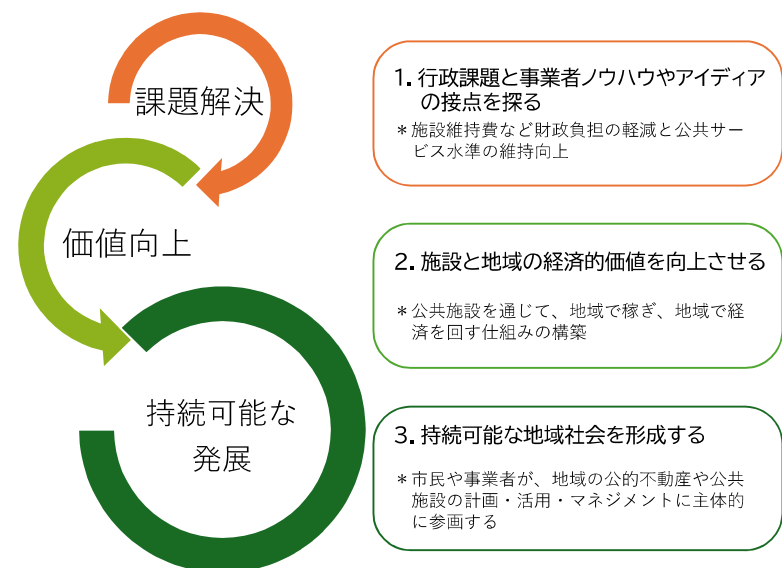


VI.整備・運営の基本的考え方

1. 公園での公民連携事業(施設整備・運営)のパターン例



2. 公民連携事業のステップアップ



3. 公民連携事業の事例

①那覇市漫湖公園鏡原川 Park-PFI 事業

■配置計画



民間事業者
オーエスティ共同企業体
代表法人：(株)オーエスティ
構成法人：スターバックスコーヒージャパン (株)

従来通り市が整備・管理する範囲
(約4.9haのうち約4.4ha)

民間が収益施設からの利益を含めた自らの資金により、公園利用者向けの施設を置く範囲
(4ヵ所合計で約4,900㎡)

民間が収益施設(飲食店必須)を設置・運営する範囲
(建築面積191㎡)

資料：那覇市漫湖公園鏡原川 Park-PFI 事業
公募設置等計画概要の図に一部加筆

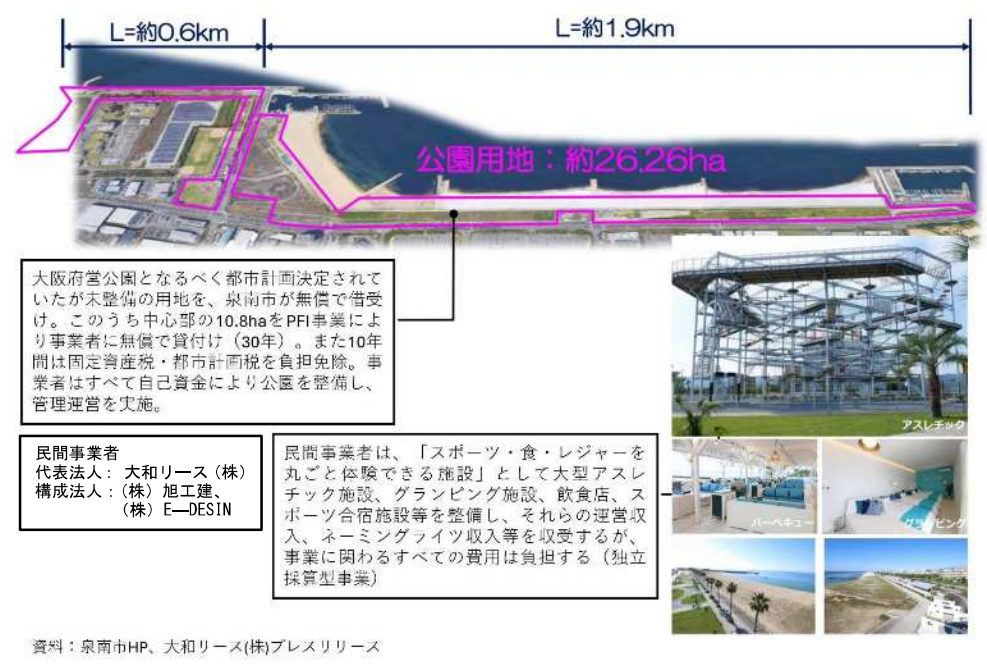
②須磨海浜水族園・海浜公園再整備事業 Park-PFI



③安満遺跡公園



④せんなんロングパーク(泉南りんくう公園)



⑤うめきた公園(グラングリーン大阪)



JR大阪駅前の鉄道貨物基地跡の再開発エリアであるグラングリーン大阪の中央に、約4.5haの都市公園（うめきた公園）を配置したもの。
公園は大阪市とURが防災公園街区事業としてベースを整備。周囲の再開発に係わる事業者JVが上部施設などのアップグレード整備を実施後に、大阪市内に移管。
管理運営は、大阪市から、事業者JVが参画するエリマネ団体（(一社)うめきたMMO）を指定管理者として指定（50年間）

資料：大阪市HP掲載の資料に一部加筆

民間事業者
うめきた MMO
代表法人：三菱地所
構成法人：大阪ガス都市開発、オリックス不動産、関電不動産開発、積水ハウス、竹中工務店、阪急電鉄、三菱地所レジデンス、うめきた開発特定目的会社（出資者：大林組）



4. 公民連携導入候補施設及び活動メニュー

1. 公民連携に向けての基本的な取り組み

・導入候補施設ごとに異なる民間事業者が設置・運営管理した場合は、静岡県日本平夢テラスがあり、民間のお土産物屋があり、日本平ホテルがあり、それぞれが自社の売れるものを売っている現在の状況から大きな変化が見られないと考えられる。公民連携事業という視点で必要なことは、様々な民間事業の寄せ集めではなく、多少の赤字部門の民間事業が出るとしても、日本平エリア全体としては事業が成り立っていることが優先される業態が求められる。「レストランだけなら、アスレチックだけなら」といった事業者を集めるのではなく、パーツは連携会社などに任せるとしても、経営的な側面において事業全体を引っ張っていただける民間事業者としっかりとした調整ができる体制が必要とされる。

2. 公民連携導入候補施設一覧

施設名	構成施設	主な利用対象	規模	有料	民活導入の可能性	有料・公民連携の取り組み
前庭ゾーン						
大芝生広場		市民、観光客（県内外）、インバウンド	15,000 m ²			
展望テラス 展望デッキ		市民、観光客（県内外）、インバウンド				
ファミリーパーク	幼児遊具広場	市民				
	ピクニックコート					
フラワーガーデン		市民、観光客（県内外）、インバウンド	18,200 m ²	○	○	・フラワーガーデンを有料化するには、近傍の花畑施設の規模などと比較しつつ、競争力がある規模、計画内容を設定 【参考】花の公園のメイン花壇・花畑 ・あわじ花さじき（約15ha） ・ひたち海浜ネモフィラの丘（約4.2ha）、 ・はままつフラワーパーク花壇（約0.5ha） ・浜名湖ガーデンパーク花の美術館（約1.0ha） ・あしかがフラワーパーク藤棚（約0.4ha）
BBQコーナー		市民、観光客（県内外）		○	○	・レストランの一形態として屋外でバーベキューのできるテーブル席のようなものとする場合は、人件費の縮減、食材等の管理のために、霊峰テラス内のレストランと同一の運営であることが前提 ・入場有料のフラワーガーデン（料金ゲートはエントランス棟内）の中にBBQコーナーがあるため、フラワーガーデンサイドが集客を主導する運営構造が必要
体験茶畑		観光客（県内外）、インバウンド		○	○	・現在と同様な状況で管理運営を継続することを前提とし。継続しない場合は、他の場所等を再検討 ・単体では県内各地の茶畑等との差別化が難しいため、富士山の絶景と組み合わせるようなメニュー（現在の「全景の茶の間」の発展型）が必要

・近年の公民連携事業では、行政が本当に必要な施設を公共事業化し、それ以外は民間事業者任せにすることが多く見られるようになっている（せんなんロングパーク、うめきた公園など）。現行の基本計画改定は、提案している導入候補施設や活動メニューについて、民間事業としての実現性の検討とともに、民間事業者側からもっと良い空間構成や施設整備事業のアイディアを提案していただく資料として位置づけられる。

・民間事業者が有料施設として設置・運営管理することを考えると、施設が分散していることの難しさはあるが、有料化を検討できる施設、人を配置しないといけない施設などは、民間が主体となるエリアマネジメント的な取り組みが考えられる。

施設名	構成施設	主な利用対象	規模	有料	民活導入の可能性	有料・公民連携の取り組み
中庭ゾーン						
霊峰テラス （公園センター）	展望テラス	市民、観光客（県内外）、インバウンド	延床 2,500㎡～ 3,000㎡			
	絶景映像テラス			○	○	・映像展示については、常に進化する映像装置の更新や、新鮮味があるコンテンツ制作に費用がかかるので、収益確保が困難な施設のため「雨の日に見れない富士山を見た気分になる」のではなく、「晴れた日でもお金を払って見たくなる」レベルの映像展示が必要 ・公民連携の視点であれば、チームラボのようなアートコンテンツをイメージする方が可能性は高いが、10分程度の映像を見せるだけならば無料化も考慮
	レストラン				○	・食事として楽しむことだけではなく、生産者や調理した人との交流や静岡市の風土及び歴史、文化を体験するという時間を提供
	ギフトショップ				○	・日本平公園に相応しいブランド価値を高めるギフト商品の開発や飲食メニューの提供 ・日本平に特化したギフトショップとして、歴史・文化に関する親しみのあるグッズやガイドブックの販売等
	観光ガイドセンター				○	・日本政府観光局（JNTO）認定など外国人観光への対応もできる良質な観光ガイド、とくに地元が独自に企画・運営する観光商品を提供する着地型コンテンツは、民間の事業として実施可能（観光案内だけでは有料化できないので、物販・飲食、アクティビティ等を組み合わせれば成立可能）
	貴賓室			○	○	・絶景と上質な空間、プレミアムな体験（料理、各種サービス、体験プログラム等）を満喫できる貸室
	管理センター					
アドベンチャー系遊具		市民、観光客（県内外）	5,000㎡	○	○	・アドベンチャー系遊具やフィールドアスレチック施設は、民間での設置・運営は可能 ・ただし大きな施設では数ヘクタール、遊具（アスレチックポイント）では数十から100超といった施設もあるため、それらとの競争力を保てる規模・料金設定・商圏などは、民間事業者の意見を反映する内容で検討
ジップライン （東展望台）		市民、観光客（県内外）	L=265m	○	○	・ジップラインの架線下の土地は、市所有・公園開設済みになっている方が、事業者は安心して運営が可能
センター広場	センタープラザ	市民、観光客（県内外）、インバウンド	4,000㎡			
	中央芝生広場		5,000㎡			
和風庭園＋茶屋		観光客（県内外）、インバウンド	4,300㎡	○	○	・単体での運営は難しく、また独立させることも難しいため、レストラン等と組み合わせた運営が前提 ・和風庭園を美しく保つには、専門性をもったスタッフによる管理が必要
サクラテラス		市民、観光客（県内外）、インバウンド	5,000㎡			
タキザクラの庭						
梅園			4,000㎡			
奥庭ゾーン						
グランピング		市民、観光客（県内外）、インバウンド	7,500㎡	○	○	・ホテルとの競合は考慮しつつ、良質なグランピング施設であれば、利用対象に海外客も考慮 ・むしろ、国内客向けで他地域・他施設と競合するよりも、海外客向けに振り切った施設・サービスとする方が、平日稼働が上がる可能性が拡大 ・清水港に入ってくるクルーズ船の客はまったく客層が異なるので、日本平を目的地として泊まりに来る海外客を増やすことが必要 ・その場合、エリア全体として、外国人でも使いやすい交通手段、観光ガイドのあり方、早朝や夜間などの自然の魅力を活かしたエリア運営など、ソフト面の充実が必要

3. イベント・アクティブメニュー案

イベント・アクティブメニュー	対象施設	有料
有度山フォレストガイドウォーク	公園全体、公園周辺	○
サイクルロードレース		○
星空ウォッチング、夜景スポット	大芝生広場	
霊峰富士山ウォッチング		
フライデーナイトコンサート（クラシック、ジャズ等）		○
サマーロックフェスティバル		○
体験熱気球、ランタンリリース		○
風揚げ大会		
季節ごとのフラワーフェスティバル	フラワーガーデン	○
謎解き宝箱探しゲーム		○
親子でのキャンプ体験	デイキャンプ場	○
茶摘み・手もみ茶体験	体験茶畑	○
日本平夜市、出店、演奏会	センター広場	
緑豊かな環境の中のヨガ・プログラム		○
人気アニメの展示となる機動戦士ガンダム特別展		○
静岡市観光菊花展		
国内イチゴフェスティバル		
人気のキャラクターに扮する日本平コスプレ撮影会		○
徳川家の武士衣裳体験（インバウンド）		○
季節イベント（ハロウィン、クリスマス、初日の出、バレンタインデー）		
最新技術の光のアートによるインタラクティブ映像	霊峰テラス	○
クラフト教室、自然学習教室、花の寄せ植え教室		○
プラモデル制作体験		○
静岡の日本酒テイasting、伝統的な食文化体験		○
春の七草や、秋の七草の催し、虫ききの会、月見の会	和風庭園＋茶屋	○
さくらまつり	サクラ広場	
うめまつり	梅園	

- ◆有料・民活の取り組み
- イベント・プログラムの多くは、有料であっても単体事業として採算をとるのではなく、拠点施設運営者や指定管理者が全体的な運営の中で適宜サービスを提供する業態
 - また表記を赤字に変えたイベント（コンサートや気球など）は市や現地事業者が直接主催するというよりも、専門業者に任せる持ち込み事業になると思われ、市や現地事業者に入る収入は使用料程度に限定

4. その他の観光コンテンツ（案）

①ヤマトタケル歴史のハイキングコース

静岡県、静岡市が設定している6つの有度山ハイキングコースの内、特にJR及び静鉄「草薙」駅を起終点として、草薙神社を經由し日本平公園に至る「東海自然遊歩道バイパスコース」を、「ヤマトタケル歴史の道」として再設定する。路面の改修やサイン、解説版等のリニューアルによる歩行環境の改善に加え、観光コンテンツとひとつとして、インバウンドを含む観光客に積極的にアピールしていく。



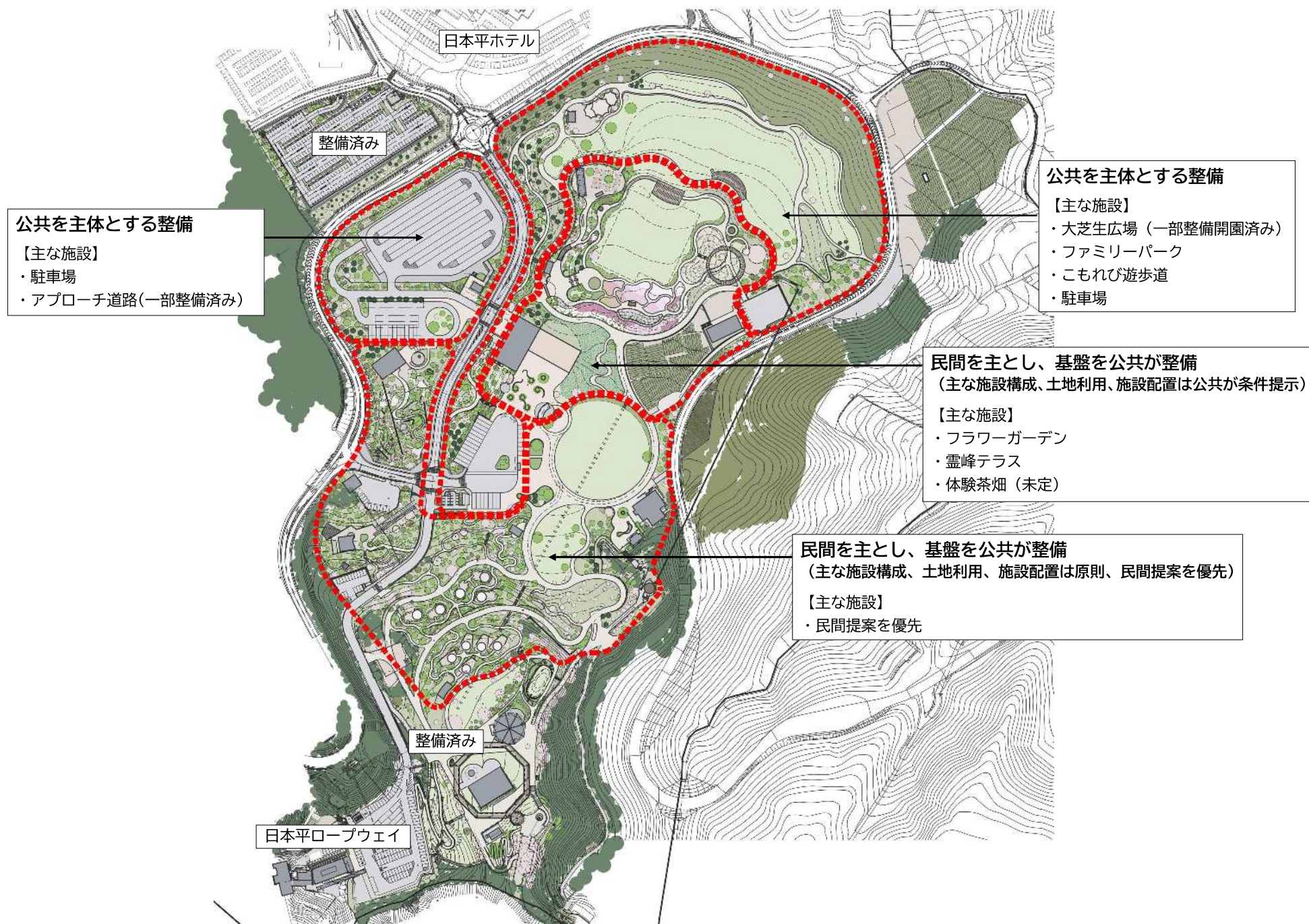
②久能山 1159 段石段登坂チャレンジ

市が今後、積極的に取り組むとしている、駐車場や景観計画等、久能山東照宮表参道を中心とした久能のまちづくりをきっかけとして、東照宮へのアクセスルートのひとつである、山下の石鳥居から十七曲がり、1159 段の表参道階段（石段）を、主にインバウンド旅行者を対象としたスポーツアクティビティとして活用する。段数の語呂合わせ、「いちいちご苦労さん」にかけて、およそ 20 分の登坂を、アクティブレクリエーションのひとつとして楽しんでもらう。

③いちご街道トレイル

久能山東照宮表参道のまちづくりと併せ、古くからの静岡市の観光コンテンツのひとつである「石垣いちご」の再生と、三保松原から東照宮、登呂遺跡を結ぶ観光交通ルートへの観光客誘致の一環として、国道 150 号（通称、いちご街道）から日本平公園（または東照宮）への新ロープウェイ等の導入を引き続き検討していく。

4. 事業のイメージ



参考-1 将来的なパークアクセスモビリティの動向

1. 周辺地域の交通特性

○日本平動物園駐車場との関連

⇒日本平動物園駐車場のアクセスルートとなる市道への混雑緩和のため、駐車場への入庫待ち行列帯を敷地内に設けるなどの対策を行っているが混雑時には、入庫待ち行列が発生している。

⇒丘陵地に近接しており、混雑時の自動車交通の迂回するための逃げ場がない。土日等は、交通混雑が発生しており、特に、例年のGW期間中においては、1.5kmの渋滞長に発生するなど、周辺住民の生活に支障をきたす状況となってる。

⇒また、東名高速道路との立体交差部分の市道の拡幅が困難であるため、市道の交通容量を増やせない状況である。

⇒2025年度GWからは駐車場の完全予約制の導入による道路混雑解消に努めた結果、GW期間中交通渋滞は発生しなかった。

○人口動態の変化に伴うバス交通のサービスレベルの低下

⇒多くの地方都市において、地域住民の高齢化による移動制約者の増加及び少子化による人口減少等による影響として、「地域の足」であるバス利用者の減少に起因し、続いてそれに伴う運行本数の減少などによるサービスレベルの低下を招き、結果的に更なるバス利用者の減少に陥るなど「負のスパイラル」が発生する傾向がある。

○鉄道駅からの距離

⇒最寄りの鉄道駅から公園まで距離があるため、徒歩での利用は少ないと考えられる。そのため、最寄りの鉄道駅からバス、タクシーなど二次交通を用いる必要があるが、経路、本数等のサービスレベルが低い状況である。

○地域公共交通計画の充実の必要性

⇒地域住民の高齢化により、日常の買い回りや通院等の外出機会への支障が多くなる傾向がある。また、一般的に核家族化の進行により、家族による自動車送迎がないことから、外出機会の低下を招く可能性が高くなると考えられている。

⇒通常、高齢化等による移動制約のある場合は、「ドア・ツー・ドア」での移動ニーズが高まる傾向がある。具体的には、福祉輸送、タクシー、ディマンドバス、路線バス等のニーズが高くなることが考えられる。（通常、移動制約は、「自分の意志だけでは、容易に移動ができない人」のことであり、外国人、親子連れ、妊婦等も含まれる。）

⇒現在、公園にアクセスしているバス路線は、静岡側からのみ連絡している。（平日4本、休日9本）（現在、清水側からは運行されていない。）

⇒スマートフォン等を用いたアプリの活用による MaaSの飛躍的な進歩により、電子決済、多言語化導入のハードルが下がった。

⇒タクシー等の配車機会を増やすため、本市ではライドシェアの実装が進められている。

○地球温暖化ガス排出抑制の必要性

⇒自動車排出ガス等の地球温暖化ガスの排出抑制が地球規模で求められている。

○関連技術の進歩

⇒自動運転に向けた環境整備が進められている。（レベル4に向けた取り組みが進んでいる。）

2. 立地環境における公園アクセスの特性

○パークウェイを利用した自動車による公園へのアクセス

⇒多くの利用者がパークウェイを連絡して来園している。なお、パークウェイは、道路法上の有料道路として建設されたが、現在無料化され、市道として位置づけられている。しかし、有料道路としての道路構造令等で作られているため、原動機付き二輪車及び歩行者の通行は規制されている。

○新規交通アクセスの要望

⇒地元経済団体から清水側から日本平公園及び久能山東照宮への新規交通機能導入の要望がある。（新規ロープウェイ設置の要望）

○インバウンドの交通への対応

⇒清水港からの寄港地ツアーによる団体利用への対応が必要である。（観光バスでの輸送対応）

⇒外国人にとって簡単、分かりやすい、手軽等の「やさしい交通」へのニーズの高まりへの対応。（MaaS）

○混雑時における緊急時走行空間の確保

⇒緊急車両の通行等に支障がない交通環境の創出が求められる。

○久能山東照宮へのゲートウェイ機能

⇒公園機能以外に久能山東照宮へのゲートウェイ機能を補完している。

3. 将来的なパークアクセスモビリティの動向

○移動制約者（交通弱者）への対応

⇒MaaSの普及によるやさしい交通機能の強化により、移動制約の解消（障がい者、高齢者、インバウンド等）

○地域交通環境

⇒ライドシェアの拡充

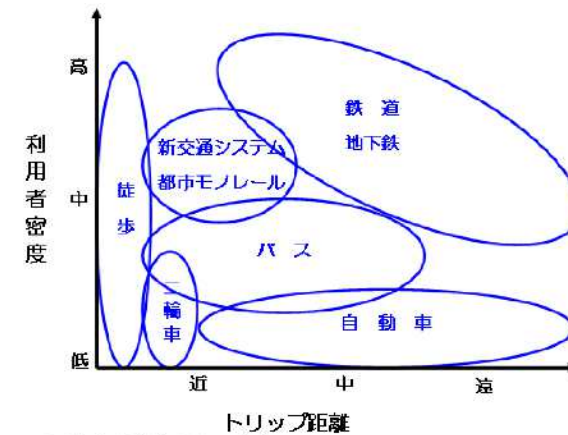
⇒福祉輸送の充実

⇒グリーンスローモビリティの導入

※グリーンスローモビリティ：電動で、時速20km未満で公道を走る4人乗り以上のパブリックモビリティ（「第8回 都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会 参考資料集」（2018）国土交通省）

○中量輸送規模の需要

⇒今後の公園整備の進捗に合わせて、来園者の増加が見込まれることから、清水港や鉄道駅からのバス等を含む中量輸送規模程度の交通手段の整備は必要である。



※国土交通省資料より作成

図 都市交通手段別の利用者密度とトリップ距離のイメージ

以上から、本公園で実現可能なアクセスモビリティの方策を整理すると下記の通りになる。

○既存公共交通の充実

- ・バス路線のサービス充実に向けた交通事業者との調整等（清水側からの定期運行再開、静岡側からの運行本数の拡大）

○新規交通機能の導入

- ・新規ロープウェイ及びZip等の新規交通軸設定の検討
- ・次世代エアモビリティ離発着に向けた環境整備

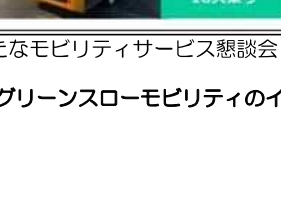
○パークウェイ等の再整備

- ・インバウンド需要への対応を含み、清水側からのアクセス強化

○パークウェイ以外の緊急時対応の路線の確保

- ・公園アクセスのリダンダンシー機能の確保を進める。

なお、「パーク・アンド・バスライドの導入検討」として、交通セル方式による、公園外における集約駐車場の確保、山頂までのピストン輸送の形態、交通混雑緩和による影響等について検討を進めることが考えられる。

【グリスロの5つの特長】		
①Green…CO2排出量が少ない電気自動車		
②Slow…ゆっくりなので、観光にぴったり		
③Safety…速度制限で安全。高齢者も運転可		
④Small…小型なので狭い道でも問題なし		
⑤Open…窓がない開放感が乗って楽しい		
※乗合バス事業、タクシー事業、自家用有償旅客運送で運行可		
軽自動車	小型自動車	普通自動車
 4人乗り	 7人乗り	 車椅子リフトあり 16人乗り
 4人乗り	 10人乗り	特殊用途車両（8ナンバー）
	 車椅子リフトあり 10人乗り	 福祉車両タイプ

出典：「第8回 都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会 参考資料集」（2018）国土交通省

図 グリーンスローモビリティのイメージ

【主要トピックス】

○日本平動物園が GW 期間に駐車場の完全予約化導入

- ・日本平動物園では、ゴールデンウィーク（GW）期間における駐車場の入庫待ち行列による周辺道路の渋滞回避を目的として、今年の GW から、駐車場の完全予約制を導入する。（4 月 20 日公表）
- ・日本平動物園は、鉄道の駅から遠く自家用車で来園する人が多数を占めている。主要な接続道路も基本的に 1 本しかないため、GW 期間は駐車場に入ろうとする車が道路まではみ出し、周辺に大渋滞が起きていた。長い時は園の入り口から 1.5 km 先の南幹線まで車が繋がり、午前 10 時～午後 2 時くらいまで渋滞が続いていた。
- ・動物園では自家用車で来る人を減らそうと、シャトルバスを運行しているが、シャトルバスが渋滞に巻き込まれ、動物園までなかなか到着しないという本末転倒な事態になっていた。
- ・対象期間は、5 月 3 日～6 日の 4 日間で 4 月 1 日から日本平動物園のホームページで予約受付開始する。予約がない車は駐車場に入ることはできない。また安全上の理由から、車で送迎も禁止となる。
- ・この期間は JR 東静岡駅南口から無料シャトルバスが、15 分に 1 本程度運行される。動物園では、予約ができなかった人はシャトルバス、自転車、タクシー等で来園してほしいと呼びかけている。なお、東静岡駅周辺に動物園が用意する無料の駐車場の設置はない。

＜実施後＞

- ・予約制を導入したことで、毎年の課題であった周辺道路の渋滞は、今年は発生しなかった。一方、懸念されていた来場者数への影響については、JR 東静岡駅から無料シャトルバスを運行したものの、2024 年の同じ時期と比べて約 39%減った。
- ・市長は会見で「本来、動物園は楽しんでもらうための施設、多くの方に楽しんでほしいのに、駐車場がないので楽しめなかったでは、問題になる。」と述べた。
- ・市は、2026 年以降の運用について、予約を 1 日単位から時間単位へ変更することなども検討しながら、改善を図っていきたいとしている。

【参考】

○「日本版ライドシェア」清水港で始動

- ・清水港でクルーズ船客を対象に、「日本版ライドシェア」が始動した。クルーズ船客のインバウンド（訪日客）需要により、タクシーの供給が追いつかない事例があり、取りこぼしを防ぐことを狙っている。
- ・これまで清水港では、白タク（タクシーの無許可営業）行為が横行する実態もみられていた。
- ・清水港は海外からのクルーズ船寄港が昨年約 80 回あり、今年は 100 回超と大幅な増加が見込まれている。停泊時間はおおむね日中の 10 時間前後の場合もあり、乗客にはタクシーを使って富士山目当てに富士宮市や河口湖（山梨県）、箱根（神奈川県）まで足を延ばす人が少なくない。
- ・複数のタクシー会社が同港に乗り入れていたが、大型船が立ち寄るとタクシー利用の希望が 100 人規模に達し、一部の客を 1 時間以上待たせたり、市中のタクシーが不足したりする実質的な交通空白が生じていた。
- ・今回、タクシーの配車事業をしている一般社団法人静岡 TaaS（静岡市葵区）が市に国への申請し、17 台分のライドシェアが許可された。現時点で駿河交通（同市駿河区）に 2 台が登録し、4 月からサービスを始めた。

- ・ウェブ予約にシフトし、英語を話せたり、通訳アプリを使いこなせたりする人材を養成し、乗務員のおもてなしスキル向上も図る。

○クイーン・エリザベス寄港 静岡・清水港で“ラッシュ”本格化 乗客、次々と周辺観光に

- ・英国の海運会社が運航する国際クルーズ船「クイーン・エリザベス」（90900 トン）が 4 月 6 日、清水港の日の出埠頭に寄港した。北半球で国際クルーズ観光が旬になる春を迎え、“寄港ラッシュ”が本格化してきた。
- ・初寄港した昨年に続く入港。下船した乗客はバスやタクシーなどで周辺観光に出かけた。船を見学を訪れた人には運航会社のオリジナルポストカードが配布された。
- ・全長 294 メートルの大型クルーズ船で清水港には 2024 年に続き、3 回目の寄港となる。今回は日本各地と韓国を巡る 10 日間のクルーズで、2000 人あまりが乗船している。
- ・清水港には客船を見に多くの市民も集まり、運航会社のオリジナルポストカードが配布され、船とともに記念写真を撮っていた。

○「新幹線から見える」ガンダム等身大立像を 静岡市長が誘致意欲

- ・本年夏に「バンダイスピリッツ」が運営する「ガンブラ」を生産する新しい工場が、葵区長沼で稼働する予定である。本市は工場稼働に合わせて、観光誘致などを狙い「バンダイスピリッツ」に、等身大ガンダムを設置するよう働きかける意向を表明した。
- ・難波喬司市長は「新工場が稼働を開始する東静岡に置いていただけるといい。新幹線からも見えて効果がある」と述べている。
- ・なお、設置にかかる費用を市が負担する考えはないとの見解を示しているが、誘客などに向けて支援していきたい方針である。
- ・2017 年 7 月から 8 カ月間開催された静岡ホビーフェアで、J R 東静岡駅の北口に等身大ガンダムが設置された際は、およそ 160 万人が訪れ、経済波及効果は 489 億円だった。

○2025 年度寄港予定の船の中で、最大のクルーズ船が初寄港

- ・清水港に今年度寄港予定で最大のクルーズ船が 5 月 16 日に初寄港した。アメリカの船会社が所有する客船「オペーション・オブ・ザ・シーズ」で総トン数 16 万 8666 トン、全長 348 メートル、最大幅 41.2 メートル、乗客定員は 4180 人、乗員は 1500 人とされている。
- ・静岡市は日の出埠頭の岸壁で式典を行い、乗客を対象に清水港を周遊するスタンプラリーなどを実施した。また、地元有志による「清水クルーズ祭り」を開催し、書道パフォーマンスや居合道の演武、出店などで乗客を楽しませた。

○清水港・日の出埠頭にて大型クルーズ船 2 隻同時接岸 4000 人が来港

- ・清水港日の出埠頭（ふとう）に 5 月 25 日、米国の海運会社が運航する国際クルーズ船「セレブリティ・ミレニウム」（9 万 963 トン）、「ノルウェー جان・スピリット」（7 万 5904 トン）が寄港した。
- ・今回の大型クルーズ船 2 隻同時接岸は、4 月の駿河湾フェリーの乗り場移転により可能となった。同埠頭に大型クルーズ船が 2 隻同時に接岸 2 隻はいずれも全長が 300 メートルに迫り、定員も 2000 人/隻を超える。10 月、11 月にも同時寄港の予約が入っている。

○御殿場アウトレット「空飛ぶクルマ」の離発着場にてデモフライト

- ・御殿場市にある御殿場プレミアム・アウトレットでは、27 日に「空飛ぶクルマ」用の離発着場「パーティポート」を整備し、今秋ごろにデモフライトを予定していると発表した。
- ・離発着場「パーティポート」は 2023 年 12 月に国土交通省が示した整備指針に従い整備されており、航空管制室や待ち合いスペースがあるトレーラー型のターミナル施設も設置した。

○富士スピードウェイ（F S W）周辺の複合商業施設「おおみかテラス（仮称）」

- ・富士スピードウェイ周辺の再開発計画の一環で、トヨタ不動産（東京都）と富士モータースポーツフォレスト（小山町）は、5 月 28 日にレストランや温泉、ホテルなどで構成する複合商業施設「おおみかテラス（仮称）」を 2026 年春から順次、開業する方針を発表した。
- ・静岡県の新鮮な食材を生かした和洋中の多彩なレストラン、富士山を眺めながら楽しめる天然温泉やサウナ、愛犬と一緒に宿泊できる部屋など約 60 室を設ける予定の比較的安価なリゾートホテルなどが整備される見通しである。
- ・2026 年春からレストランなどをオープンし、翌 27 年春には温泉施設やホテルも含めて全面開業する計画である。